

平成 27 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2015

Date: 2016 年 3 月 25 日

言語社会専攻長

日本語・日本文化専攻長 殿

To Dean of Studies in Language and Society

To Dean of Studies in Japanese Language and Culture

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパⅡ講座 准教授
氏名 Name	古谷大輔
専門分野 Academic Field	西洋史学

主たる研究テーマ Principal Research Subject	バルト海帝国を事例とした礫岩国家の歴史的ダイナミズムに関する研究
<p>2015 年度は、計画 3 カ年目を迎えた科研基盤研究（B）「歴史的ヨーロッパにおける複合政体のダイナミズムに関する国際比較研究」の推進に全力を傾注した。まず近年の日本の西洋史学界における近世史研究の動向を整理し、中世から近代へと至る歴史的ヨーロッパの展開のなかに近世ヨーロッパの君主政を位置づけるべく「礫岩のような国家」論を整理した。これらの議論は「歴史的ヨーロッパにおける「礫岩のような国家」への眼差し」（『歴史評論』787 号）、「近世史研究の現在と「礫岩のような国家」への眼差し」（『西洋史学』257 号）に掲載された。さらに、この「礫岩のような国家」論を踏まえた実証研究を、バルト海帝国を例に進めた。性格と来歴の異なる地域社会を包括する君主政像がいかに可視化されたかを主題として、「王国の叙法—近世スウェーデンの歴史的景観記述に見る王国像—」（『IDUN 北欧研究』21 号）をまとめるとともに、「礫岩」のように構成されたバルト海帝国の構築過程について、デンマーク君主政からスウェーデン君主政へ帰属を変えたスコーネ地方を例に論じ、それを「バルト海帝国」の集塊と地域の変容—スコーネ地方の編入とスコーネ貴族の戦略—に整理した。後者は 2016 年初夏に山川出版社より刊行される論集『礫岩のようなヨーロッパ』に掲載される。（なおその論集については、編者として作業にあたっている。）「礫岩のような国家」論は、近世世界における「多国籍」的な人間交流のあり方を浮き彫りにするものだが、そうした観点を踏まえた「財政軍事国家」論の再考や近世日欧交流史の再考を目的として、「アジアとヨーロッパを繋ぐ媒介者たち—蘭学を刺激したヨーロッパ出身者の事情」（『適塾』48 号）、「財政軍事国家スウェーデンの複合政体と多国籍性—コイエット家の事績を中心に—」をまとめた。後者は 2016 年 4 月に大阪大学出版会から刊行される論集『グローバルヒストリーと戦争』に所収される。そのほかにも、編集委員・共同執筆者として携わった『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』（ミネルヴァ書房 2016 年）や「スウェーデン語研究財前線—スウェーデンの技術史から学ぶ知見」（『生産と技術』68 巻 2 号）なども刊行された。</p>	